レッスン：21“M”

テーマ：アウタルキー

MACC21/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

　　以前のレッスンで、いわゆる素質的可能性のサイクルと蓋然的可能性のサイクルについて述べ、素質的可能性のサイクルは蓋然的可能性のサイクルの結果によって、その表現が制限される、と述べました。さらにまた、いわゆる多様性である絶対存在について触れ、それはアウタルキー（＊自己充足の状態）の中のみならず、創造の諸世界全体において現れている、と述べました。

今回のレッスンでは、それ自体の本質の中にあり、いわゆるアウタルキーである絶対存在のもう一つの特質について話します。時間の経過の中におけるアウタルキーについて話している人は多くありません；絶対存在の本質としてのこの特質について説明し、絶対的な考えを述べるのは非常に困難です。

　　多くの人々はアウタルキーと豊かさ（Abundance)について混乱し、同一視しています。しかし、豊かさとアウタルキーは同じでしょうか？豊かさがあるということは、必要なものがあり、それが豊富に満たされていることです。しかし、絶対存在はそのアウタルキーの状態において、必要とするものがあるのでしょうか？答えはノーであり、それゆえ豊かさをアウタルキーと同一視して考えることはできません。アウタルキーとは、絶対存在にはニーズつまり必要とするものが何もない、という意味です。

　　絶対存在は永劫に創造します。絶対存在には現れを創造する必要性があるのでしょうか？実際にはありません。アウタルキーにおいては、あらゆるものは動き、発振、波動の状態（ステート）にありますが、動いたり、発振したり、振動しているものは何もありません。創造の諸世界には二つの現れがあり、それはロゴス的現れと聖霊的現れです。ロゴス的現れとして人間のイデアがあり、そのイデアの結果として、元型、法則、原因の諸世界、存在の諸世界、ノエティックな諸世界におけるこのイデアの結果として、いわゆる魂のセルフ・エピグノシスがあります。魂のセルフ・エピグノシスは本質（Nature)を現しているでしょうか？この場合の本質とは、絶対存在の本質、アウタルキーを意味します。

　　Lifeそれ自体(Life Itself)の特質は、アウタルキーそれ自体の現れなしに完全に表現され得るのでしょうか？実際、私達の魂のセルフ・エピグノシスはアウタルキーを現しているのでしょうか？絶対存在は様々な創造の諸世界においてアウタルキーを現しているのでしょうか？もしそうなら、どのようなアウタルキーが現れているのでしょうか？

　　魂のセルフ・エピグノシスはアウタルキーを現していますが、それは絶対存在が現すアウタルキーと同じではありません。それでは、何が違うのでしょうか？質的には同じですが、量的には違います。なぜなら、それは絶対存在の一部にすぎないからです。

　　魂のセルフ・エピグノシスのアウタルキーは、セルフ・モナド(Self-Monad) 内に限られているのでしょうか？**多様性の中では、私達の魂のセルフ・エピグノシスは全ての中にあり、全ては私達の魂のセルフ・エピグノシスの中にあるのです。**私達の魂のセルフ・エピグノシスによって表現されるアウタルキーについてはどうでしょうか？それはセルフ・モナドのアウタルキーなのでしょうか？答えはノーです。それは多様性の結果であるアウタルキーであり、それは魂のセルフ・エピグノシスとしての全ての表現の結果です。絶対存在のアウタルキーがあり、さらに魂のセルフ・エピグノシスのアウタルキーがあるのです。

　　創造の諸世界における他の形態の現れについてはどうでしょうか？聖霊的現れについてはどうでしょうか？それらの現れによって、どのようなアウタルキーが表現されているのでしょうか？

　　以前のレッスンで、私達の兄弟であるアークエンジェル達はアウタルキーの外に出たことは一度もない、と述べました。それは、彼らが絶対存在のアウタルキーを表現している、という意味でしょうか？違います、彼らは彼ら自身のアウタルキーを表現しており、そのアウタルキーは特定のセルフ・エピグノシスの結果として彼らに与えられたものであり、そのアウタルキーがアークエンジェル達を様々なオーダーに分類します；それゆえ、ミカエルのアウタルキーがあり、ガブリエルのアウタルキー等があるのです。アークエンジェル達には彼ら自身のアウタルキーがあり、それはモナド・セルフ　（Monad Self)のアウタルキーではなくグループのアウタルキーであり、一つのグループの中には無数のアウタルキーがあり得ます。全てのオーダーの中にあるあらゆる支配圏(Dominions)のアウタルキーがあり；一つの支配圏のアウタルキーがあり、オーダーとしてのあらゆる支配圏のアウタルキーがあるのです。

page2

　　さて、Lifeの現象についてはどうでしょうか？存在の諸世界にはLifeの現れがありますが、実存の諸世界、二元性の諸世界において表現されるLifeの現象はアウタルキーを現しているのでしょうか？私達がアウタルキーを表現する時、何かを必要とするでしょうか？必要ありません。しかし、無知の結果として、Lifeの現象は多くのものを必要とします。それゆえ、無知の中にある間は、Lifeの現象はアウタルキーを現していません。ですから、**私達が何かを必要としている限り、私達はアウタルキーを表現していないのです。**

　　マインド(Mind) はこの現れに影響を与え、この現れに何らかの必要性を創造するのでしょうか？多くの人々が…＜全てはマインドであり、マインドによる＞…と考えています。私達が今話しているのはこのマインドです。スーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質としてのマインドがあります。これらマインドの異なった波動は、異なったマインドの波動で表現されている現れに、何らかの必要性を与えるのでしょうか？何が現れに必要性を与え、無知の結果として現れはどのように影響されるのでしょうか？

　　無知の結果として、現れにおける思考・行動の仕方は、いわゆる気づき(awareness) によって影響されます。それは、私達の特質がどれほど表現されるかに影響を与え、表現される量を決定するのです；言い換えれば、私達は自分たちの主なる本質であるアウタルキーを表現するのを、無知によって制限されているのです。それゆえ、無知の中にある間は、気づきのあるレベルを表現している間は、Lifeの現象として私達は自分たちの特質であるアウタルキーを完全には表現していないのです。

　　アウタルキーは実存の諸世界で表現され得るのでしょうか？私達はアウタルキーを表現することができるのでしょうか？人間にとってアウタルキーを表現することが可能でしょうか？勿論それは私達が話しているアウタルキーの種類によります。それは絶対存在のアウタルキーですか、それとも魂のセルフ・エピグノシスのアウタルキーですか？それは素質的可能性のサイクルによって定義され、実存の諸世界で表現されるアウタルキーですか？私達はまさに実存の諸世界のアウタルキーを表現しているのです。

　　様々な波動のマインド内で表現されるものは全て、素質的可能性の中にあります。さて、以前のレッスンで、実存の諸世界のなかでさえも多様性の現れがある、と述べました。これら実存の諸世界において私達がアウタルキーを表現することができると言うとき、そこにはパーソナリティーの表現があるのでしょうか？個別性（＊個人個人）によって制約されたパーソナリティーのアウタルキーを表現するのでしょうか？

　　違います、個別性のアウタルキーの現れがありますが、同時に全ての人において表現されるアウタルキーがあります。このアウタルキーは、それを超意識的に表現するレベルに達した全てのパーソナリティーによって表現される必要があるのでしょうか？答えはノーです、それは必要ではありません。

　　さて、絶対存在のアウタルキーがあり、魂のセルフ・エピグノシスのアウタルキーがあり、私達の兄弟であるアークエンジェルたちのアウタルキーがあり、さらに実存の諸世界の中においても表現されうるアウタルキーがあります。私達の創造についてはどうでしょうか？前回のレッスンでいわゆる多様性について述べ、私達が創造するものは生きている実体(living entities) であって、それらの実体はそれを表現するべきパーソナリティーの現れを十分に表現している、と述べました。これらのエレメンタルはアウタルキーを表現しているのでしょうか？なんと、このポイントに触れるのは今回が初めてなのです。従って、非常に深い水の中に踏みこむので大いに注意してください。

page3

　　これらのエレメンタルはアウタルキーを表現しているでしょうか？過去に、全てのエレメンタル、私達が創造するエレメンタルは、一度創造されたなら死ぬことはない、と述べました。確かにエネルギーが失われることはありますが、再びエネルギーを付与され得るのです。なぜなら、それらは永遠の中に留まる様々な意味のなかの動きであり、それらは永遠の今の中に留まっているのです。

　　それらのエレメンタルはアウタルキーを表現し、またどれほど多くのタイプのエレメンタルがあるのでしょうか？以前、想念欲望の結果としてのエレメンタルと欲望想念の結果としてのエレメンタルについて述べました。

　　まず、欲望想念の結果としてのエレメンタルについて見てみましょう。それらのエレメンタルはアウタルキーを表現しているでしょうか？答えはノーです、それらはアウタルキーを表現しておらず、そのパーソナリティーが示し、現すものを表現しているのです。これらのエレメンタルはそれらを創造したパーソナリティーの特徴を表現しているのでしょうか？それらはそれらが示し、現すパーソナリティーの特徴を表現しています。それらを創造したパーソナリティーは自分の気づきのレベルに従って、他のパーソナリティーの特定の現われを理解します。

　　それでは、想念欲望の結果としてのエレメンタルについてはどうでしょうか？それらのエレメンタルはアウタルキーを表現することが可能でしょうか？アウタルキーとは、それがいかなる必要性もなく、いかなる制限その他もない、ということに注意してください。それらのエレメンタルはアウタルキーを表現するでしょうか？前のレッスンで、想念欲望のエレメンタルを創造するためには、その人は自分の諸体の再形成を完全に終了したレベルに到達していなくてはならないと言いました。それはつまり、そのパーソナリティーは本質である特質を完全に表現し、アウタルキーを表現していることを意味します。アウタルキーが表現されていなければ、他のいかなる本質である特質も完全に表現されることはありません。このアウタルキーは、素質的可能性のサイクルによって定義されるアウタルキーとなります。想念欲望のこれらのエレメンタルはアウタルキーを表現できるのでしょうか？それらはエレメンタルであり、いわゆる超意識のセルフ・エピグノシスを表現しているパーソナリティーの創造です。

　　ここで再び、私達はこれらのエレメンタルを二つのカテゴリーに分類しなければなりません：一つのカテゴリーは、その特定のパーソナリティーの一般的表現の結果であるエレメンタルであり、それらはアウタルキーを現していません。しかし、エレメンタルのもう一つのカテゴリーがあり、それはアウタルキーを完全に表現しており、パーソナリティーそれ自身によって表現されたものであり、それらのエレメンタルは全て完全に同じです；つまり、その特定のパーソナリティーの現れもまた、エレメンタルとしてのそれらの体という手段を通じて表現されています。そのようなレベルの現れ、成長に到達したパーソナリティーは、奉仕するために必要なだけの同一体をいくつでも創造することができます。

　　さて、意識であるセルフ・エピグノシスの中心はこれら全ての体の中に広がっており、＜これは同一体であり、こちらはその特定のパーソナリティーの本当の体である＞と言うことはできません。全ての体は同じであり、全ての体は同一体であり、パーソナリティーはそれらの体を通じて完全に表現され、各体は独立して働いています。さて、これは非常に理解困難なことかもしれません。これら全ての体のなか、と私達が言うとき、それはインナーセルフのことではなく、名前を持った一人のパーソナリティーについて述べているのです。

　　さて、そのパーソナリティーがこれら全ての体を通じて表現され、各体は相互に独立して働くと言う時、それらの体はそのパーソナリティーを制約するものではないことを意味します。なぜなら、そのパーソナリティーは全ての制限と限界から解放されているからです。

　　これらのエレメンタルがアウタルキーを表現することができ、時間の中で生き続けることができると思いますか？この世界で表現されるアウタルキーに到達したマリア、コスタス、アンドレアスという名前の人々がいるとします。しかし、パーソナリティーとして、今や中心のパーソナリティーとして、彼らは同胞である人間により多くの助力を与え、人々をより一層抱擁するために、転生のサイクルを継続しなければならないのです。

　　それでは、アンドレアス、あるいはマリア、コスタスというパーソナリティー、これらのパーソナリティーはどうなるのでしょうか？これらのパーソナリティーは超意識の意識であるセルフ・エピグノシスを、そして素質的可能性のサイクルによって定義される現在のパーソナリティーのアウタルキーを表現します。動きとして、彼らは永遠の中に留まりますが、パーソナリティーそれ自身はどうなるのでしょうか？

転生のサイクルの結果として、コスタスを転生させる永遠のアトムは、時間・空間の意味内に生きて留まる別のパーソナリティーを転生させます。しかし、生きて留まるという時、それは粗雑な物質の中に生きるという意味ではなく、エーテルの諸世界の中に生きて留まり、同胞の人間たちに奉仕、愛を提供するのです

；これらのパーソナリティーが物質世界に姿を現すためには単なる集中だけで十分なのです。

**各体は独立して働きます；つまり一つの体に一人のコスタスではなく、多くのコスタス、多くのマリアが存在します。彼らが以前、コスタス、マリア、エレニ等の超意識のセルフ・エピグノシスによって創造された時のようにです。**これはとても理解しがたいことですが、事実です。

　　さて、新しいパーソナリティーはどうなり、新しいパーソナリティーと以前のパーソナリティーとの関係はどうなるのでしょうか？

先ほど述べたように、過去のパーソナリティーとしてのコスタスがいて、それはいまやアンドレアス、コスタス-アンドレアスとしいう新しいパーソナリティーとなっています。

何か違いがあると思いますか？コスタスは超意識のセルフ・エピグノシスの結果でした；アンドレアスはどうでしょうか、彼にとってそれは同じではないのでしょうか？違いがありますか？違いはありません、しかし、アンドレアスとは、コスタスの結果プラス何か、ではないのでしょうか？

経験に関する限り、＜この何か＞は勿論あまり大きな意味はありません。このレベルの成長に到達したパーソナリティーは、そこに何かを提供するような経験をすることはありません。そのパーソナリティーは影響を受けることはありませんが、それは再び時間・空間の意味内における動きです。それらの意味によって制約されることはないのですが、それでもそれはそれらの意味内における動きです。それらの意味内でパーソナリティーは何を経験しているのでしょうか？それは原因・結果の法則の結果を経験しているのでしょうか？他人を助けることができるためには、この法則、原因・結果の法則の結果を自らの肩に背負う必要があります。

　　ですから、新しいパーソナリティーは人々を助けるために、他人の重荷を背負います。

コスタスという以前のパーソナリティーについてはどうでしょうか？コスタスは今、アンドレアスと同じ助けを与えることができるのでしょうか？違います、それは同じではありません。コスタスも助けを与えるのですが、全ての重荷はコスタスではなくてアンドレアスが背負わなくてはなりません。

重荷は中心のパーソナリティーの最新の現れであるアンドレアスが背負う必要があります。

私達が中心のパーソナリティーと言うとき、それは永遠のパーソナリティーの意味ではなく、その特定の現れにおける超意識のセルフ・エピグノシスの中心となるパーソナリティーという意味です。

そうです、私達がこのことについて話すのは初めてです。創造、および創造界における現れは、あなたのこれまでの考え方、概念とは異なるかもしれません。

それは非常に複雑です；前に進めば進むほど、あなたは自分が何も知らなかったことにより一層気づくでしょう。

　　ですから、アウタルキーはあらゆるところにあり、私達はニーズ、必要性を持つゆえにアウタルキーの表現を制約しています。アウタルキーの状態では、私達には何も必要とするものがありません。アウタルキーそれ自体が何も必要としないからです。アウタルキーを豊かさ(Abundance) と混同しないでください。私達が豊かさについて述べる時、そこにはアウタルキーがないことを意味します。これを把握し、理解するのは簡単ではありません。現在のパーソナリティーとしての私達は、今この時点における気づきというフィルターを通じてわかることしか理解できないのです。

私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

MAC.21/4END

EREVNA/SERIESM/M21/EN

22M/IS A FOLLOW-UP.